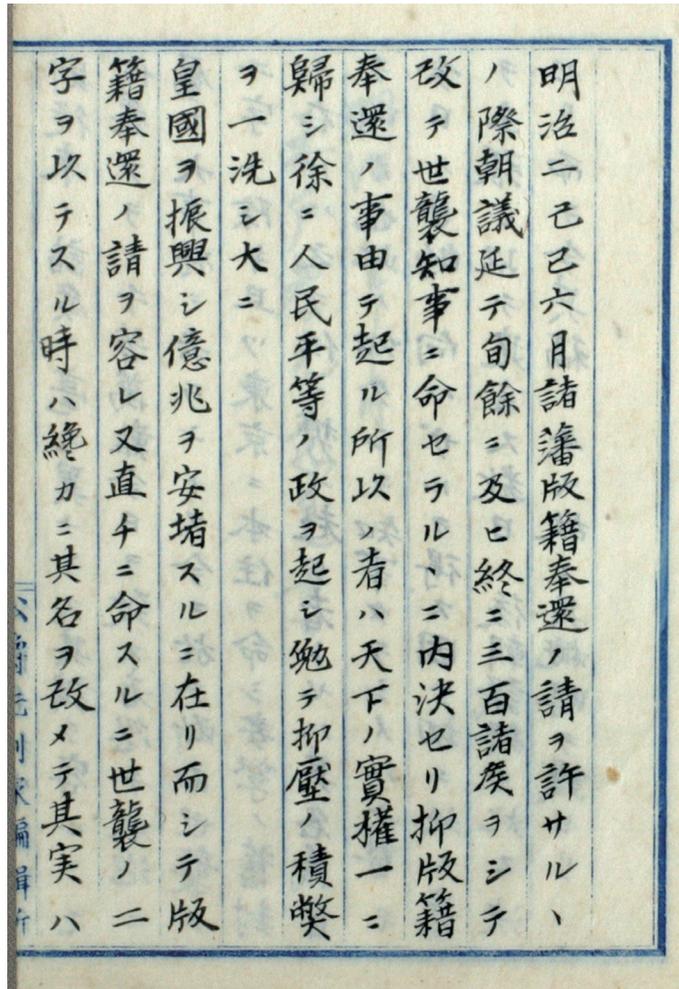


藩から県へ（木戸孝允）



* 毛利家文庫 75維新記事雑録84「木戸孝允建白書並意見書」

解説

大久保利通・西郷隆盛とともに維新の三傑に数えられる木戸孝允（桂小五郎）は萩に生まれ、吉田松陰に学んだのち江戸に遊学し、剣豪としても名をはせました。帰藩後は藩政の中枢に参画し、西郷隆盛らと薩長同盟をむすび、討幕に向かいました。

王政復古後の1868（明治元）年には参与に任ぜられて新政府の実権をにぎる一人となり、以後明治新政府の中枢にあって、「五箇条の誓文」の起草、版籍奉還、廃藩置県など封建的諸制度の解体につとめました。

写真は1870年の版籍奉還において、大名を世襲の知事に任命することに内決したことに対し、中央集権を進める立場から反対意見を建白したものです。新政府にはさまざまな意見対立がありましたが、木戸の考えは、2年後の廃藩置県へとつながっていきました。

* 毛利家文庫 75維新記事雑録は、毛利家編輯所が、集めた維新関係資料を書名の「いろは」順に蓄積していたものを、あらたに「あいうえお」順に配列しなおして通番を与えたものです。これ以外にも、当館の毛利家文庫目録「第4分冊」（毛利家文庫分類項目番号59～81）の文書群は、防長の維新史に限らず、明治維新を国家的に考える資料の宝庫です。